

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 事業名 | 南信州地産地消推進事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 南信州地産地消推進協議会 (株)南信州観光公社(事務局) |
| 事業区分 | (6)産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,489,720 円 (うち支援金: 1,191,000 円) |

事業内容

○生産者と実需者(消費)を結ぶ地産地消プラットフォームとしての「まちの八百屋」機能を確認、生産者と実需者をコーディネートし地産地消の流通量を拡大し、地域経済循環に結び付ける。
 ○「まちの八百屋システム」への参加組織を拡大し、南信州農畜産物の消費促進を図るため2事業を実施する。①地産地消研修会 ②地産地消コンサルティング(旅館ホテル、ドライブイン、道の駅等対象)



【生産者・実需者視察交流

【目標・ねらい】

- ①地産地消推進システムまちの八百屋の確立による生産者実需者の地産地消利用促進
- ②地産地消の住民啓発
- ③地産地消による宿泊施設・飲食店の高質化とブランド化
- ④関係団体のコラボレーションによる財貨循環の相乗効果

事業効果

- ①地産地消システムまちの八百屋が具体的に動き始め、JAがそのコーディネートに当たるといった画期的なシステムを創設。宿泊施設のみならず、宴会・料飲店サイドからもシステムへの参加要望が生まれている。
- ②地産地消推進協議会の会員相互のコラボレーションの機運が高まった。
- ③生産現場における実需者・生産者交流の高い効果が確認でき、生産から流通まで実需者が視察し、地域初の農産物の流通実態を知ることが、利用促進に対する動機づけにつながることが確

※自己評価【A】

【理由】

コロナ禍により実施できない事業もあったが、概ね着手することができた。食のアカデミー、生産者実需者交流の実施は相互理解を深めることにつながった。

今後の取り組み

- ①まちの八百屋システムへの参加施設を増加させ、食のレベルの高質化と生産振興につなげる。
- ②伝統野菜をはじめとする生産現場における生産者・実需者交流を進める。
- ③会員組織の事業協力等、食に関係する事業のコラボレーションを促進して、相乗効果を発生させる。
- ④食の認証制度の研究を引き続き行い、制度の試行につなげる。
- ⑤南信州地域内の住民啓発を行い、地域に根付いた地産地消の取り組みに育てる。